

ヒトの寄生虫も変わる

皆さんのおじいさんやおばあさんが小学生だった頃、日本でも多くのヒトが寄生虫をもっていました。中でも、回虫は代表的なヒトの大型寄生虫でした。当時、作物を栽培するための肥料として、ヒトの糞尿を使っていました。糞尿は土の中で分解され、窒素などの養分となって作物に吸収され、それをヒトが食べ、養分がヒトと田畑でうまく循環していました。

しかし、ヒトの体内の寄生虫の卵が糞にまじって野菜につき、よく洗わずに食べると寄生虫の卵が再びヒトの体内に入りました。当時、寄生虫保有者の割合は非常に高いものでした。

そのほか、はだしで田畑を歩くとズビニ鉤虫やアメリカ鉤虫（ともに「十二指腸虫」と呼ばれた）が皮膚からも進入し、よく火を通さない淡水の魚貝類や甲殻類からは肺吸虫や日本海裂頭条虫なども寄生しました。

現在の日本では田畑から入る寄生虫は減りましたが、高級な食材が増え、生の魚やイカなどを食べるようになったため、それらから線虫のアニサキスや旋尾線虫などがヒトの体内に入り、新たな寄生虫が問題となっています。また、海外旅行が増え、外国の寄生虫にかかったり、ペットを飼う人が増え、それからうつる寄生虫もできました。

科学博物館には2階展示室「丘陵・人の近くにある自然」に回虫や鉤虫の標本があります。また、3月から5月第1週にかけて、回虫（写真1）や日本海裂頭条虫（写真2）などを2階廊下で展示いたしますのでごらんください。

（2011年2月 布村 昇）

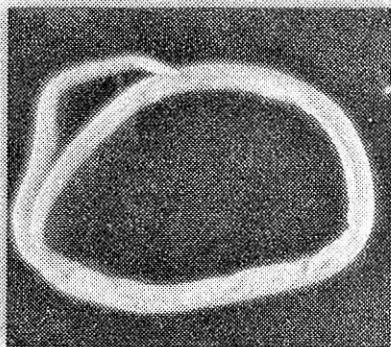


写真1：回虫。体長は最大40 cm。

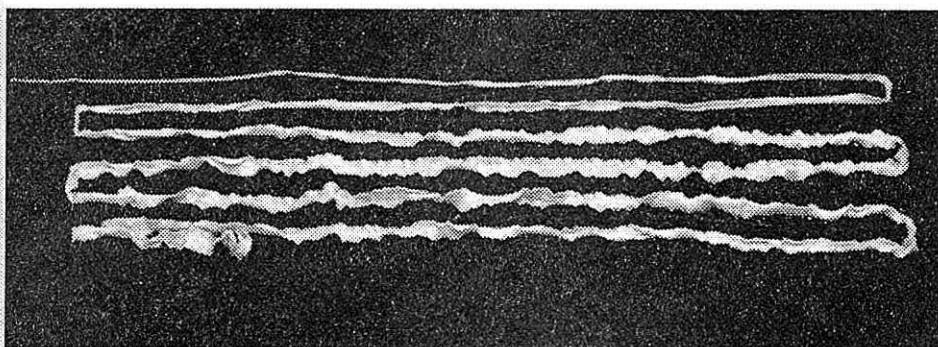


写真2：日本海裂頭条虫。成虫の体長は最大で10 mにも達します。